

脳科学的には言語や感情をつかさどる前頭葉への血流が減り、生理学的にはストレスホルモンが増えるためだと考えられるそうです。

教科書のデジタル化。アメリカではうまくいかず紙の教科書に戻した学校が多いそうです。ビクトリア・ダンクリ

一氏、2015年には「RESET YOUR CHILD'S BRAIN」がベストセラーに、その邦訳「子どものデジタル脳完全回復プログラム」は今年5月に出版されたそうです。日本でのデジタル教科書段階的導入にも一考を投じたと言えます。今後の議論の進展に期待します。

### 国家安全保障戦略

### サイバー積極防御へ

9月13日火曜日読売朝刊には重要インフラに対するサイバー攻撃への防御態勢を強化するとありました。さらに基礎からわかる安保3文書が当日の特別面に掲載されており、国家防衛戦略は如何に。

## ドラゴンへの階段 第41回 (連載エッセイ版)

「悩める友への、贈らない手紙」 佐藤 洋祐

友よ、苦しみのさなかにいる君を思い、私の心も泣いている。

決して年長者の上から目線というのではなく、私は自然と歳も経験も重ね、自我というものがこの世のあらゆる生の一断片であり、こうして筆を走らせる今も窓辺に散りゆく枯葉と同様、役割を全うして土に帰る覚悟を感じる度に安堵を覚える様になっているから、まだ若くてこの世の悦び、楽しみ、悲しみ、苦しみの全てを体験したい君のソウルとは違った立ち位置に居る。だけど私にももちろんそういう若い時は長くあったし、その頃の私の姿をさげすんだり、後悔したりはしていない。生きている間に、心の面持ちは変わるというだけのこと、どちらが優れているという話ではない。

そんな君に降りかかっている苦しみを、君はこれまで経験してきた歓びの何倍もの量に感じているのかも知れない。そんな苦楽の比率はこれからの人生においても変わることがなく、わずかな歓びを得るために計り知れないほど深い苦しみの闇を通過しなければならぬと途方に暮れているかも知れない。だが共に音楽を学ぶ過程を通して、その苦を乗り越える方法をこのタメな私なりに君に伝えようとしてきたと思う。確かに私たちはそのための修練を少し積む時間はあったが、現実の苦は練習でこなしてきたものとは比べ物にならないほど厄介だ。本当に乗り越えるべき試練に直面した時、その闇の中で足元を照らす明かりは、誰かから与えられるのではなく、君自身の手で掴まなければならぬ。その灯し方を、まだなんの心配もいらない屋間の明るいうちに教えてもらうような、ちょっと便利な情報としてではなく、真の闇を体験した上で明かりを灯すことの重大さに心底気づき、自分からその方法を貪欲に盗み取っていかねばならない。それは君がこの世に生を受けて以来ずっと君を愛しいつも傍らにいてくださった君のご家族も、愚かしいながらも君と共に音楽を学ぼうとしてきた私も、ずっとずっと君と一緒に生きることはできないからだ。優れた先人の知恵を盗みとり、愚かな私のやり方を見て学び、君自身で明かりを灯し夜道を歩いていくことが、結局、生きるということだからだ。

だから、私はこの手紙を決して君には贈らない。贈って、これまでにもあったように無理やりでも君にこれを読ませて、とりあえずの納得をさせてしまったら、君の手で執行してこそ意味のある大事なこの明かりを灯す機会を、私が奪ってしまうかも知れないからだ。君が明かりを欲し、君の感性の赴くままに救いを求めてこの手紙にたどり着いてくださったなら、と願っている。いや、それよりも前に、この愚かな私でも良いし、そうでなくとも君の周りには素晴らしい君のご家族、友人たちがたくさん居られる。君の本当の心を打ち明けて、皆さんに救いの手を求めて欲しい。生きるということは、助け、助けられることだ。一人でもがき苦しむことだけではない。

心から欲し、偽りの自分を捨て本当の自分の気持ち伝えれば、それだけで道は開けてくる。それがいかに難しいことか、そしてその難しさに気づくことができれば、すでに君の手には小さな明かりが灯っていることだと思ふ。

君ならきっとできると信じている。信じているから、この手紙を贈らない。私は君を待ち、そして君が私に直接助けを求める折にはより大きな力となるべく、己に必要な、今も重ねているこの努力をこつこつと継続する。贈らないのは、君を見損なったのでも、見捨てたのでもない。この世を生きる仲間として、君を心から信じている。だから、この手紙は贈らない。(2022年9月8日筆)



挿絵 TAKAKO

佐藤洋祐(サトウ ヨウスケ):ジャズミュージシャン。サクソ奏者としてグラミー賞を2度受賞。2015年末より佐倉市在住。2019年よりシンガーとしても活動を開始。